

「MV 2 オスプレイ」の配備中止を求める意見書（案）

沖縄の普天間基地への配備予定の米海兵隊の垂直離着陸輸送機「MV 2 オスプレイ」は、沖縄県内だけでなく、全国各地で低空飛行訓練を行うことが明らかとなって、住民の不安と怒りが広がっています。「オスプレイ」は、開発段階から墜落事故を繰り返し、6月にはアメリカのフロリダで墜落事故を起こしたばかりであり、今後も事故の発生が懸念されます。

米軍によると、訓練は日本全土の米軍が指定した訓練ルートで夜間も含めて低空飛行を行うとしており、このうち「イエロールート」と称する訓練ルートは、九州の大分、福岡、熊本、宮崎をつなぐコースであり、県内への飛来による事故等が心配されます。

米軍機の騒音、墜落の危険で今も苦しめられている沖縄県では、県知事をはじめ、県議会、41市町村とすべての議会が配備に反対しています。

全国知事会も先般、「自治体や住民が懸念する安全性の確保のできていない現状では受け入れできない」として、配備や国内での低空飛行訓練に反対する緊急決議を採択しました。

国民の安全と命を守る立場から「オスプレイ」配備と日本国内で低空飛行訓練に反対するものです。

よって、当嘉麻市議会は、政府がアメリカ政府に対して「オスプレイ」配備と日本国内で低空飛行訓練の中止を強く申し入れするよう求めるものです。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

平成24年12月18日

福岡県嘉麻市議会

内閣総理大臣 殿
外務大臣 殿
防衛大臣 殿